KSKP ひょうかれん
令和元年 11 月 1 日
No.92

編集人
公益社団法人
兵庫県精神福祉家族会連合会
新銀 輝子

〒651-0062 神戸市中央区坂口通２丁目 1-1 兵庫県福祉センター６階 TEL.078-891-3871/FAX.078-891-3872
Eメール hyokaren@citrus.ocn.ne.jp ホームページ http://www.hyokaren.or.jp

ＫＳＫＰ　一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

ひょうかれん設立 50 周年記念大会（10/5）

“本人の心の叫びを聴き、家族の物語りを創ろう”

会長 新銀 輝子

令和元年は、兵家連にとっても創立５０周年と言う半世紀にも及ぶ大きな節目の年となりました。参院選の結果、重度障害者を国会に送り出した今回の選挙は、障害者に関わる制度改革が急務になるのは間違いありません。

又、その一か月前の６月２６日には JR 等の交通運賃割引制度を精神障がい者も対象とする「請願」が衆参両院で採択されました。とは言っても実現への道は今からです。JR、その他の鉄道、航空機、旅客船及び、タクシーの各運賃、高速道路その他の有料道路の通行料金に関わる交通運賃割引制度を精神がい者にも適用される様に、家族会が一丸となって適切な措置を講じることを強く求めていきます。

更に、１０月５日、近畿ブロック家族の集い IN 兵庫と題しまして、ひょうかれん創立５０周年記念大会を会員並びに関係者の皆様のご協力により成功裏に終えることができました。この日は、糸川ドクター、夏刈ドクター、中村様を始め、家族の代表として大倉理事が登壇し、これからの家族の有り様 (物語) について活発な意見が交わされました。

又、３年前より兵庫県の委託事業として始めた「こころやすらぐひろば」は、現在、兵家連主体で、地方を中心とし県下８か所で実施しておるところです。
家族集団である兵家連が相談事業に参画することは、同じ仲間として受け入れ、支えあい、学びあう事に意義を見出すものです。

今後は、更に兵庫県独自事業、精神障がい者相談員制度の充実に努力していく所存です。
又、令和２年に向けて以下の重点項目を掲げ、事業・活動を推進してまいります。

１）家族会の活性化 (若い世代の掘り起し、家族間交流による地域格差是正、相談リーダー研修の継続)
２）精神疾患が他の病気と同様に、病気の理解と、早期発見、早期治療に関する啓発
３）精神保健福祉施策への働きかけ（障害者総合支援法の活発な推進）
４）精神障がい者が地域で生き生きと就労に参加できる仕組みつくり

会員各位の積極的なご協力を賜り、関係団体との連携を図りながら精神保健福祉向上にまい進して参りますのでご支援の程宜しくお願い申し上げます。

県知事に精神福祉施策充実に関する要望書を提出へ

【他障がいと同等の支援を】

1．２０１４年からみんなねっとの指導で全国家族会はJR運賃等割引キャンペーンを実施中です。本年６月に国会衆・参両議院でJR運賃等の割引請願が５年目にしてやつと採択されました。この成果を契機にJRをはじめ、全ての交通事業者に対し全国一斉に要請行動を展開します。

2．身体・知的障がい同等に精神障がい者相談員制度の法制化を重ねて国に働きかけてくだい。

3．重度障害者医療費助成（全科無料）の対象を精神１級→２級までに拡大してください。既に、多くの自治体が障がい者間の格差解消のために精神１級→２、３級への拡大を実施しており、兵庫県も２級までの拡大を重ねてお願い致します。

【精神障がいに対する教育、啓発の促進】

4．２０２２年から高校教育に「心のバリアフリー教育」が採用されます。小中学生においても「精神障がい者を早く正しく理解」し、「病気の早期発見と偏見・差別」を無くすよう指導をお願いします。

5．教育委員会から地域自治会の人権学習会等で「精神障がいへの理解」を大きく取り上げ、たびたび社会問題を生ずる原因である、「偏見・差別を無くす」よう啓蒙を重ねてお願いします。

6．「こころやすらぐひろば」事業は「地域住民との交流、啓蒙の場」としてＨ２８に県下８ヶ所に開設し４年目を迎えます。偏見差別解消の窓口、会員および支援者の増加等、地域に定着しており今後も本事業を継続・拡大したいと思っています。特に現在社会問題化している「引きこもり」にも声をかけ、我々家族会の仲間として一緒に活動して行きたいと思っています。

【精神障がい者就労の促進】

7．ＩＰＳモデルを企業に導入を進め、精神障がい者の雇用拡大を図って下さい。

8．事業協同組合（特定事業主特例）を広め、精神障害者雇用の拡大を図って下さい。

9．企業において「精神障がいの理解を深める」研修を全社員に徹底するよう更に指導して下さい。

10．就労定着率向上のため企業は就職後の精神障がい者社員教育・育成を、安定するまで気長に実施して下さい。また当人の能力に合わせて短時間就労の導入を配慮して下さい。

【医療・年金に関する要望】

11．精神科特化訪問看護等、アウトリーチ型医療福祉の充実を早急に図ってください。特に地方での施設数が少なく、精力的に整備してください。(地域包括ネットワークの促進)

12．精神科病院において不必要な隔離・拘束及び薬物の多量・多剤使用など人権侵害の情報が多く報告されています。兵庫県実施の調査結果を今年も詳しく報告して下さい。

13．兵庫県の障害年金審査の国移管後の状況問題ないか、調査し報告して下さい。

14．自立支援医療費の自己負担無料化を引き続き国に働きかけて下さい。

【当事者及び家族支援に関する要望】

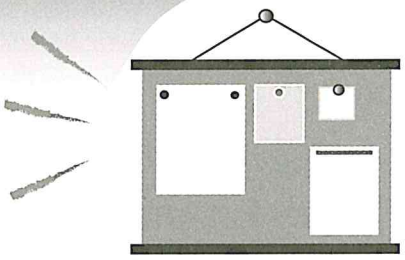
15．当事者活動、家族会活動に対する県及び市町の支援を強化して下さい。
「ピアサポート事業」、「家族による家族学習会」への経費等の支援をお願いします。。

16．イギリスのメリデン版訪問家族支援技術を「みんなねっと」が導入し、技術を国内に広げています。ご支援を宜しくお願いします。

【グループホーム等退院促進に関する要望】

17．精神障がい者が地域で生活する為の「グループホーム」、「住宅」が不足しています。
退院直後に一人住まいが容易に出来るよう、安価で安心できる住居を提供してください。
特に地方が不足しています。又、事業者への報酬単価を引き上げてください。

ご報告



（公社）兵庫県精神福祉家族会連合会　2019年度定時総会

2019年度定時総会を6月17日(月)13:30～16:15、兵庫県福祉センターにて開催しました。兵庫県下42名のうち欠席は、13名で、更に、役員、同伴者が20名出席し活発な審議、報告が行われ、全件、全員一致で承認されました。平成30年度の主な活動報告として、『みんなねっと兵庫大会』の成功がありました。又、JR運賃等の割引国会請願活動を推進しましたが、改善はあったものの結果が出ず、今年度も引き続き活動を続けることとなりました。

そして平成28年度に開設した『こころやすらぐひろば』事業は、兵庫県の補助金は切れたが、兵家連予算として今年度までは継続し実施することにしました。

定時総会終了後、第2部で意見交換会を開催しました。4グループに分けて『家族会の活性化』、『親亡き後について』『兵家連の今後の活動について』の3つのテーマから選択してもらって自由に討議し、発表会を行いました。意見交換会は、各家族会からの生の意見をお聴きできる貴重な機会ですので大切にしたいです。

本年度の活動の柱として、10月5日（土）に兵庫県看護協会ハーモニーホールにて『みんなねっと近畿ブロック家族の集いin兵庫（ひょうかれん創立50周年記念大会)』を開催します。統合失調症の母を持つ精神科医2人と著名漫画家を招待して、対談会を開催します。ご支援、ご協力をお願いします。

（公社）２０１９年度全国精神保健福祉連合会第１回定期総会

令和元年度全国精神保健福祉連合会が６月１０日(月）～１１日（火）に東京池袋のアットビジネスセンターで開催されました。全国４７都道府県の家族会会長、事務局長が参集し、定期総会議案審議、報告事項、等意見交換が行なわれ、全員一致で全ての議案が了承されました。ＪＲ等交通運賃割引請願活動については、ＪＲ運賃においての進展はなかったが、航空運賃割引が認められ、また東北地方での私鉄運賃割引が認められる等、徐々に改善が進んでいる。また精神障がい教育の高校学習要領への導入が決まる等オリンピック、パラリンピック開催に向けた行動計画も着々と進められており今後の活動を強めていく。賛助会員の拡大計画については、効果が出ておらず、今年も活動強化継続の指示がありました。

家族会の活性化について

兵家連　副会長　南部和幸

2019年度定時総会第2部の意見交換会及び兵家連内の家族会やきょうだい会やきょうされんを含めての2回の座談会で、『家族会の活性化について』を討議した。これらを基にして、家族会の活性化について検討する。

家族会は高齢化とともに役員のなり手がない、大都市は家族会会員が多くて羨ましい、我々、地方都市では人口も少なく会員が集まらない、兵家連家族会数41の内、10名以下の家族会は約半数でありこれでは活動が出来ない、と言った声がある。

本当にそうだろうか、みんなねっと本條理事長は、家族会は10人前後が丁度良い、それ以上に増えたら、2分割しないと、皆さんの意見を十分に聴けないとも言われている。

家族会の活性化対策を意見交換会や座談会から整理する。

① 神戸市木の芽家族会は、当初は少人数であったが、神戸市保健所で開催される5回シリーズの精神保健福祉セミナーが新規メンバー獲得に良かった。家族による家族学習会の開催により皆が元気になった。定例会に社労士やPSW等の専門家からの情報を求めて参加者が多い。電話相談で家族会会員も成長する。

② 金銭面では、イオン等の企業の地域貢献制度、市町村の助成金や補助金制度(例えば自発活動支援事業)等を活用している。

③ ピアサポータを含めての会合、食事会で新しい風が入り、活性化に繋がる。

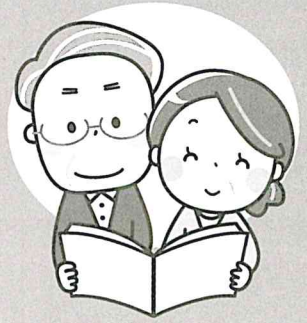
④ 急に心の病になった夫や妻、きょうだい会や親が障害者のように、家族会の形態が多様化している。昔なじみの家族だけが集まる家族会では、閉鎖された家族会となり衰退する。

⑤ 無理な活動はせず、出来る人がする、強制はしない、を基本とする。一方、会員には、色々な役を順番に割り当て、一人に責任が集まらないようにする。

⑥ 社協や保健所、他の障害者団体との連携により、強固な繋がりが出来て、対外的にも強い影響力を発揮できるようになる。

⑦ 家族による家族会の活動には限界がある。専門職の支援員や当事者等も入れた家族会もあっても良いのではないか。

⑧ 家族会が作業所を立ち上げたが、最近は制度も難しくなり、家族が障害者の家族の世話と共に作業所運営までするのは限界。作業所運営は、専門職の支援者に任せることも考える。



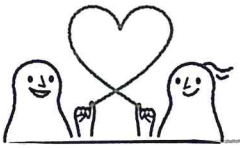
「月刊みんなねっと」購読のお願い

賛助会員(購読料金)の種類と年会費

個人賛助会員：3,600円
団体賛助会員：3,000円／人
特別賛助会員：5,000円／口

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行ってます。各地域の家族会が購読の勧誘に参りますので、何卒ご協力の程よろしくおねがいします。

トピックス　兵庫県下各地・各家族会から



神戸地区　スポーツを楽しもう！！

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会　理事　涌波　和信

みなさんは兵庫県下で多くの精神障碍者がスポーツを通して病気を克服しているのをご存知ですか？兵庫県では障害者の方々にスポーツに参加することで夢と希望と生きる喜びを提供しています。

２０１９年度も車椅子競技等行事は満載です。

１０月１１日～１０月１４日は１９回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が開催され、東京２０２０年パラリンピックの選手が選出されます。

精神障碍者の方々は卓球、フライングディスク、バレーボール、フットサルに参加しています。スポーツ競技にはチームワークと自分に勝つ勇気がいります。負けたくない闘争心で心の病をふっとばします。

東京パラリンピック競技大会やワールドマスターズゲームズ２０２１関西等大規模な国際大会を目前に控え、障碍者スポーツの関心が高まっている状況下、障碍者スポーツの更なる振興のため、県立総合リハビリテーションセンター内に「ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）」が建設されます。施設には車椅子バスケットボールコート２面や温水プール、卓球室、アーチェリー場など様々な施設が整備される予定です。だれもが利用しやすく、人々がスポーツを通じて交流出来る場となります。

姫路地区　ひめかれん念願の新事務所入居

NPO 姫路市精神保健福祉連合会　理事長　松尾　享

姫路市自治福祉会館（当時）に身体障害者及び知的障害者福祉団体の事務所が在るのに、何故ひめかれんはそこにないのですか？という質問が、５年前に某会員から発せられたのを契機に、姫路市に対し自治福祉会館にひめかれんの事務所設置を要望してきました。

従来は会員の就労支援作業所が２年間持ち回りで事務局及び事務所を担当していましたが、その方法は、「さまよえるひめかれん」であり、精神障がい者団体としての姫路市における存在感が薄いだけでなく活動に制約と限界が生じ、頭痛の種でした。

その後、自治福祉会館の建替プロジェクトが動き出したので、関係機関を巻き込んで新ビルへの入居を強く訴え続けてきました。姫路市総合福祉会館（新呼称）の 2019 年３月竣工を控え、11 月に入居応募申込書提出の案内が姫路市ホームページに掲載され、直ちに申込書を提出しました。そして、12 月に入居決定通知をいただきました。

４月 16 日に新事務所へ引越し、17 日に事務所開きを行い、新たに精神障がい者相談コーナーを開設するなど会員の要望に応えて、精神保健福祉向上のため一層努めて参ります。

コラム Column

『8050問題』を考える

代田 ひろみ

子５０才代を８０才代の親が支える、いわゆる「ひきこもり」状態の家族をメディアが大々的に採り上げるまでになってきている。外に繋がることができないまま、高齢化、孤立化、長期化しており、これがやがて心を病み、暴力に発展し、最悪の場合は悲惨な事件になってしまうケースが今、日本各地で起こり始めていることは周知の事実である。もちろん、ひきこもりだからといって事件を起こすわけではないことを、ここでおさえておきたい。

内閣府は、調査対象を 15~39 才から 40~64 才に広げており、さらに 20 才前後の予備軍までも含めると、このひきこもりと思われる数は、200 万人以上に達するのではないかと危惧されている。もはや、現代日本に発生している「家族に関する問題」が、『社会問題』になっているのだ。

一口に「ひきこもり」と言っても、その要因と症状は多岐にわたっており、その裏には本人がもつ発達障害や精神的な疾患、また生活困窮が起因していることもある。しかし、問題はそればかりではない。閉鎖的な人間関係、成果主義や他人の評価を重んじる価値基準の中で、特に思わぬ怪我、病気、ちょっとした失敗、またはいじめなどに対応しきれなくなってレールからはみ出してしまい、「少し休むつもり」が家から出られなくなっている人達が、外から見えにくい形で急増している。さらに 20 才前後の不登校児童生徒の対策も急務である。

昨今、事態を重く見た各自治体の対応もようやく進み始めている。ひきこもりの相談事業、支援窓口の設置、又専門家や医療チームなどが各地区社会福祉協議会や脱ひきこもり地域支援センターと共に対応し始めつつある。地域に根付いた家族会と、行政のアウトリーチ制度を活用していくことも一つの方法だろう。社会からドロップアウトした人を、時間をかけて関係性を築きながら地域で見守り支援していく仕組み作りが、我々家族会にも大きく課せられている。

あなたのご支援で、ひょうかれんは運営されています！

ひょうかれん 賛助会員 募集

年会費　団体の場合１口 10,000 円
個人の場合１口 3,000 円
一口以上、何口でも結構です

振込先　郵便振替　01110-4-83568　兵家連

私の綱渡りの毎日から

長木　綾子

こんにちは。私は統合失調症と診断されて17年になります。

23歳の時に発病して、5,6回入退院を繰り返し、今現在は、地域活動支援センターにお世話になっています。体調が安定せず、毎日が綱渡りです。何とか規則正しい生活を、と思うのですが、寝る時間も起きる時間も一定にならず、仮に起きられたとしても、体調が悪く、何も出来ないことが多いです。

なんで、こんな人生、と思うこともしばしばですが、なるべくその日起きた、良かったことを数えるように心掛けています。

その一つが、この17年で、大事な女友達とたくさん親しくなったことです。彼女たちは、私の大事なお手本です。彼女たちの良い所が、私の中で、何個も何個も芽吹きました。出来なかったことが、少しずつ出来るようになり、出来たことが自分の喜びとなり、生活に花を添えました。この頃では、やらなければならないことを一個一個、と心掛けることで、体調が悪くても、ちょっとずつ家事がこなせるようになりました。少しずつですが、自分の自信となっています。

地域活動支援センター「みにょんち」で、当事者研究というものをやっています。当事者の悩みをお題に挙げて、みんなで知恵を出し合う、という取り組みです。

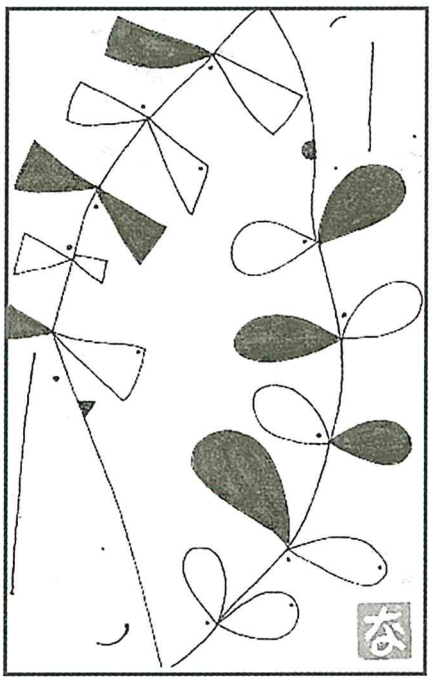
私は、施設で、当事者研究が始まった時から、お手伝いさせてもらっていて、私の悩みもよくお題に挙げてもらいました。

当事者研究も、私の中で、糧となっています。悩みや解決方法は、みんなつながっていて、一つ解決すると、ほかの悩みも解決できたりするので、考えると面白いです。

今の「みにょんち」と出会えたことも、私が数える良かったことの一つです。当事者研究で、これからの自分の将来の事も、考えていけたら、と思います。

毎日の生活にいっぱいいっぱいの私ですが、私には皆がついています。

（カットはなおきち作→）



家族の自立と当事者の自立

ジルベルト家族会 会長 福田 裕士

ジルベルト家族会の福田と申します。

ジルベルト家族会は、神戸市須磨区に拠点を置きます(株)ジルベルト《就労継続支援A型事業所》を利用しておられます、当事者のご家族を中心に家族会を開いております。

私、福田は(株)ジルベルトの代表を務めており、弊社を運営する中で日々感じる事は、精神障がいをお持ちの利用者が就労へ希望を持ち、向き合う姿勢は何ら健常者とは変わらず、社会の戦力であると確信しているという事です。

その中で、常々悩ましく感じる事は、利用者(当事者)が望む“自立の在り方”とご家族が望む“自立の在り方”に大きな違いを感じるという事です。

【体験談として、利用者山田さん(仮名)男性は、実家を出て彼女と同棲したいと言いました。私は、山田さんと何日もかけ、本当に山田さんにとって一番望む在り方は何なのかをヒアリングし続けました。ある日の事、山田さん・山田さん父・私の三者で面談をし、山田さんの同棲について深く話をしたところ山田さんは震える声で言いました「実は実家で暮らし続けたい」山田さん父は「いつまで甘えてるんだ！自立しろ！」と突っぱねました。】

上記の体験談が、私の中で非常に感慨深いものであり、ジルベルト家族会を設立した経緯にもなります。一見してよくありそうな光景ではありますが、ご家族が事実として受け入れることができず“自立の在り方”の押し付けであった事から、山田さんは世間体も気にするようになり精神的に非常にきつかったと後に聞きました。

それは“一番理解して欲しい人に、理解されない苦しみ”もあったでしょう。

山田さんは結果として、実家に暮らし続け安定し働くことができています。私どもの介入があったからこそ息子の本音と想いが聞けました、と山田さん父より感謝を伝えて頂きました。私たちは利用者の就労に向き合っている側面を毎日近くで観察しているからこそ、私たちがご家族へ伝えられる事実があります。この立場でアプローチすることで家庭環境が整理され、双方の考えを共有し直す事ができます。

ジルベルト家族会の立場としてできることを精一杯行い、一人でも多くの方の気持ちが楽になるサポートをしていく次第です。

兵庫県精神保健福祉士協会　ＰＳＷ

今回もご相談いただいたご家族からの事例をとりあげたいと思います。
なお、守秘義務の立場から内容は若干変更させていただいております。

質問

10 年以上通院している障害者ですが、薬がだんだん増えてきており、減薬を希望しています。薬を減らすと体調が悪くならないかと心配です。上手な減薬の仕方を教えてください

回答

体調に合わせて処方されたものであっても、処方量が増えることで副作用が強く現れる可能性がありますし、病気が良くならない、悪化しているのではないかという不安や葛藤があったのではないかとお察しします。

減薬していくことでまず大切なことは、その思いを“主治医にありのまま伝える”ということです。

医師はご本人、ご家族からの情報を何よりも大切にしています。みなさんのお話から一緒に解決策を考えたり、お薬の処方を行いますので、今回の場合であれば、お薬が増えたことによる症状の変化、副作用の有無、不安に感じていることを主体的に伝えることでよりよい治療環境を整えることができます。

しかしながら、簡単に思いを伝えるといっても主治医との関係性もあると思います。上手く思いを伝えられないのであれば、通院先の医療スタッフ、例えば、薬剤師、看護師、またわれわれ精神保健福祉士に相談していただき、主治医との橋渡し役になってもらったり、その思いを代弁してもらいましょう。

また“減薬していくタイミング”も大切です。

減薬による体調悪化を心配しているとのことですので、薬物療法の効果を感じておられるのでしょう。お薬は精神症状を和らげ、落ち着きを取り戻すことだけでなく、再発を予防する効果があります。減薬することだけに気をとられ、ご本人の状態を考えずに減薬を進めようとすると症状が再燃し、再びお薬を増やさなければいけなくなるという可能性もあります。そのため、減薬していく際は、体調の安定が継続できているかどうかが重要です。主治医と一緒に減薬のタイミングを計り、減薬が開始されれば、その後の体調や気になることをこまめに伝えましょう。またお薬以外にも心配なことが出てくるかもしれません。ご家族の見守りだけでなく、引き続き、医療スタッフ、身近な支援者のサポートを受けることも減薬への安心感につながると思います。

焦ることなく、ご本人にとっての適切な処方量を探っていきましょう。

お気軽にご相談ください
ひょうかれん電話相談

ハロー
TEL. 078-891-3886

土・日・祝日を除く平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 15:00

病気の事や経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（ 手帳・年金・他 ）利用の手続きなどについて、県から相談員として委嘱された家族会員や精神保健福祉士などが相談に応じます。ぜひご利用ください。

平成30年度　兵庫県精神障害者相談員　相談実績

兵庫県では、精神障害者の保健福祉等に関し、当事者又は家族等が身近な立場で相談支援を行う精神障害者相談員（平成31年3月31日現在278名）が全市町に配置されています。平成30年度の相談実績等は次のとおりです。

①圏域ごとの相談員数、相談対応件数について

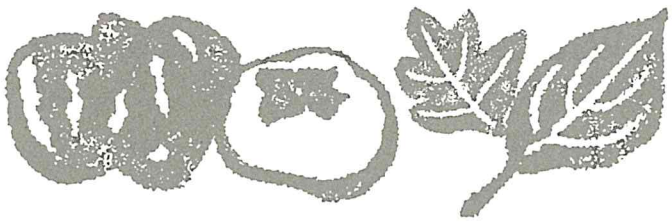
圏域	相談員数（人）（H31年3月末時点）	相談対応件数（件）	相談対応以外の件数（会議・行事等への参加）（件）
神戸・阪神	102	2,128	400
東播磨	42	1,698	225
北播磨	27	1,913	95
中播磨	20	1,111	29
西播磨	31	1,115	150
但馬	24	2,667	143
丹波	10	350	26
淡路	22	988	313
合計	278	11,970	1,381

②相談者の内訳（延べ人数）　（人）

本人	6,547
家族	3,835
その他	1,588
合計	11,970

③相談内容 件数）　件）

家族・家庭関連	3,205
法律関連	148
経済関連	544
生活関連	2,023
福祉サービス関連	1,821
社会復帰・社会参加関連	2,243
健康・医療関連	1,986
合計	11,970



精神科救急窓口のご案内

精神科救急情報センター

電話番号
078-367-7210

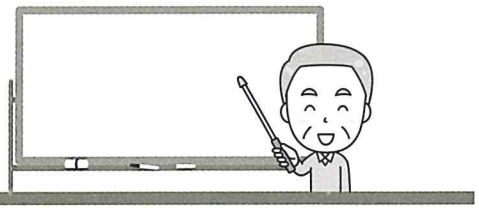
平　日：午後５時～翌日午前９時

土・休日：午前９時～翌日午前９時

《平日昼間は健康福祉事務所へ》

◆ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に告げてください。

研修会・家族教室



2019年度精神保健福祉研修会日程（実績・予定）

開催地区	開催日	開催場所	担当家族会
但馬地区	2019年11月8日(金)	豊岡市民プラザ	ロマンハウス家族会
丹波・北播磨地区	2020年3月13日(金)	未定	小野・加東精神障がい者家族会
阪神地区	2020年2月22日(土)	西宮市フレンテホール	西宮家族会
中・西播磨地区	2019年10月20日(日)	福崎町エルデホール	NPO法人中播磨峰の会
東播磨・淡路地区	2019年9月～10月	あかし保健所	明石ともしび会家族会

2019年度こころの病家族教室（実績・予定）

地区名	開催予定日	時間	開催場所	担当家族会
但馬地区	2019年9月26日（木）	13:30～16:10	養父市県立但馬長寿の郷	なんたんひまわり家族会
丹有地区	2019年8月31日（土）	13:30～16:00	氷上住民センター	木の根会家族会
北播地区	2019年11月（未定）	13:00～	加西市（未定）	加西家族会
阪神南地区	2019年11月（未定）（日）	13:30～15:30	未定	あまかれん
阪神北地区	2019年11月30日（土）	13:00～16:00	キセラ川西プラザ福祉棟	むぎのめ家族会
東播・淡路地区	2019年12月17日（火）	13:30～16:00	淡路市防災安心センター	いきいき家族会
西播地区	2020年2月（未定）	未定	上郡町（未定）	元気アップみのり家族会・ほっとみのり家族会
中播磨地区	2020年2月（未定）	未定	姫路市総合福祉会館	ひめかれん

神戸地区※	2019年12月8日（日）	13:00～16:05	兵庫県福祉センター	木の芽家族会

※神戸地区は神戸市補助事業として開催

兵家連活動日誌　役員の動き（2019年5月～8月）

5月

7 決算書確認会議＜兵庫県福祉センター＞　（米、南部）

8 50周年記念大会第2回ワーキンググループ会議＜兵庫県福祉センター＞（米、涌波、南部、大倉、藤田、伊東、新銀茂、佐伯、山口、本條、石原）

13 いこいの場ひょうご＜兵庫県福祉センター＞

14 平成30年度会計・業務監査
＜兵家連事務局＞　（山本、國下、米、石原、事務局）

16 令和元年第1回理事会（50周年記念大会実行委員会兼）
＜兵庫県福祉センター＞

18 令和元年度NPO法人かたくり通常総会
<JA丹波ひかみ農協柏原支店＞　（米）

20 県いのち対策室（永田・詰城）来訪
＜兵庫県福祉センター＞　（米、新銀、南部）

神戸市家族会/協議会の会
＜兵庫県福祉センター＞　（涌波、石原）

22 平成31年度宝塚家族会総会＜宝塚福祉コミュニティプラザ「こむ1　2階21号室」＞　（涌波）

令和元年度NPO法人明石ともしび会総会　（米、南部）

23 50周年記念誌作成用第1回家族会座談会＜兵庫県福祉センター＞　（川島、大倉、藤田睦、河上、高瀬、本條）

25 第13回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会「陸上競技、フライングディスク・サッカー、ソフトボール」開会式
＜県立三木総合防災公園＞　（涌波）

27 (公財)兵庫県障害者スポーツ協会　第24回理事会(涌波)

兵庫県パラスポーツフェスティバル参画依頼　関様来訪
＜兵庫県福祉センター＞　（涌波、石原）

28 税理士事務所山下様来訪＜兵庫県福祉センター＞
（米、南部、石原、事務局）

29 会誌#92編集会議＜兵庫県福祉センター＞
（米、涌波、伊東、松尾、代田、石原）

6月

4 こころやすらぐひろば打合せ＜明石さくら工房＞(南部)

5 令和元年度6月度役員会＜兵庫県福祉センター＞
（米、涌波、南部、新銀、大倉、河上、石原、新銀茂）

兵庫県パラスポーツフェスティバル参画依頼　関様来訪
（米、涌波、南部、新銀）

6 50周年記念誌作成用第2回家族会座談会
＜兵庫県福祉センター＞
（岩永、辻本、篠原、松永、初田、池山、米、新銀、南部）

10 みんなねっと定期総会＜アットビジネスセンター池袋駅前705号室＞　（米）

11 みんなねっと会長・事務局会議＜アットビジネスセンター池袋駅前606号室＞　（米）

12 50周年記念大会第3回ワーキンググループ会議＜兵庫県福祉センター＞(米、涌波、南部、新銀、大倉、本條、藤田、新銀茂、佐伯、石原)

13 兵庫県福祉サービス運営適正委員会＜兵庫県福祉センター＞　（新銀）

第1回運営監視合議体会議＜兵庫県福祉センター＞
（新銀）

14 令和元年度兵家連電話相談員研修（顔合わせ）＜兵庫県福祉センター＞（藤田、五十嵐、河上、篠原、藤澤、井上、樋野、大畑、友田、窪田、多田、石原、塚本、岡村）

17 令和元年度定時総会＜兵庫県福祉センター＞

18 武庫川女子大学（講師派遣）大岡先生＜武庫川女子大学文学部心理・人間関係学科＞　（友田）

19 兵庫県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議
＜兵庫県中央労働センター201号＞　（南部）

22 社会福祉法人かがやき神戸二十周年記念式典
＜ふたば学舎＞　（涌波）

令和元年度あまかれん総会＜尼崎総合医療センター＞
（米）

23 第40回きょうだい会＜兵庫県福祉センター＞

24 神戸市松原課長訪問（50周年記念大会　啓発活動）
＜神戸市本庁＞　（石原）

神戸市福祉センター本倉係長との会議
＜神戸市福祉センター＞　（涌波、佐伯、石原）

25 第15回兵庫県障害者芸術・文化祭　第1回実行委員会
＜県庁1号館5階　健康福祉部会議室＞　（南部）

26 社協評議委員会＜兵庫県福祉センター＞　（米）

7月

2 50周年記念大会用やさしさにありがとう　ひょうごプロジェクト助成プレゼン
＜コープこうべ住吉事務所　7階大会議室＞　（南部）

8 いこいの場ひょうご＜兵庫県福祉センター＞　（新銀）

10 50周年記念大会第4回ワーキンググループ・実行委員会会議＜兵庫県福祉センター＞

8月

7 令和元年度8月度役員会＜兵庫県福祉センター＞

8 50周年記念大会第5回ワーキンググループ会議＜兵庫県福祉センター＞

25 第41回きょうだい会＜兵庫県福祉センター＞

近ブロ会議＜アネックスパル法円坂7F10号＞
（新銀、涌波、南部）

編集後記

現在、全国には15歳～39歳で約54万人、40歳～64歳では60万人以上の引きこもりが居るといいます。どこかに理解者が居れば救われます。一人で抱え込まず、悩みを吐き出すべはないものでしょうか？兵家連では“こころやすらぐひろば(無料)”を開放しています。

是非“自身をオープンにして、困ったときには頼ってください。(米)

編集委員／新銀・米・涌波・南部・伊東・松尾・代田・石原

KSKP
発行ノー障害者定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田山町2-12 東興ビル4F
一九八四年八月二〇日第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行
定価＝五十円